

部活、生徒会のたすき、後輩に託す

3年 東福 風香



私たちが上市来中陸上部は、1日の地区駅伝に初挑戦した。長距離は正直苦手だったが、みんなで出ると決めたからには、やはり勝ちたかった。

個人で競うことが多い陸上競技の中で、駅伝は独特の感覚だった。これまで以上にみんなで励まし合い、競い合う練習の中で、長距離を走るつらさよりも、全員で一つの目標に向かって走る心地良さが増していった。目標の3位入賞には届かず、私たちの部活動生活は幕を閉じた。しかし、駅伝を経験できた意味は大きかった。

大学駅伝などで見える「たすきをつなぐ」という意味が実感できたからだ。

数十グラムしかない薄いたすきには受け渡しのとき「やるぞ」「任せた」という思いが込められ、とてつもなく重く、熱かった。本番でこそ味わえた感覚だ。

私たちの引退とともに部活動も生徒会も次の学年に託す。たすきの重さは同じチームで走った後輩たちだから実感できるはずだ。新チームや学校は、後輩たちを信じて任せたい。